

総括コメント：つながり始めた多言語・複言語教育の芽を育てる

白山 利信

JACTFL 創設 5 年目を迎えました。昨年に引き続き、多様な外国語教育の実現に向けて、山崎吉朗理事長が先頭に立って、フランス語、中国語、韓国語の関係学会・団体などに声をかけ、要望書を準備し、文部科学省に粘り強く働きかけてきました。その成果の一つが「外国語教育強化地域拠点事業」です。これまでの英語教育のみを対象とした地域拠点事業（「英語教育強化地域拠点事業」）から英語以外の外国語教育にも事業が拡大されました。これは、外国語教育全体の強化につながる、特筆に値する動きだと思います。

藤村正之上智大学副学長（学務担当）は、全学をあげてグローバル対応を意識した外国語教育の底上げと言語教育の多様化を図っていると述べられました。その動機となっているのは、教育理念として学生たちが多くの国々の人々とつながっていき、視野を広げて世界の多様性に立ち向かっていく必要があります、それ故に英語プラス英語以外の言語教育が不可欠であるという問題意識です。また、イスラム圏の学生に対する配慮としてハラールフードレストランを学内に開業し、食事を通じて世界を知るという取り組みは、日本の外国語教育を先導する優れたモデルケースと言えます。

文部科学省初等中等教育局の圓入由美外国語教育推進室長は、日本の学校教育の外国語教育施策の実務を担う立場から、新しい高等学校の学習指導要領の外国語教育の目標について言及され、言語の理解が文化の理解につながり、また文化の理解が他者の理解とも関わってくるといった視点が大切であることを強調されました。また、社会や他者にどのように関わっていくのか、その他者や社会とのつながりの中でどのようにしてより良く人生を歩んでいけるのかという視点の理念的な重要性についても指摘されました。これは、外国語教育が単なるスキル学習ではないというメッセージであり、外国語教育を通じた、子どもたちの豊かな人格形成という視点が特に強調されているように感じます。

本日の基調講演をされた大谷泰照先生（大阪大学名誉教授）は、日本の英語教育の問題が英語教師の責任に帰されている風潮がまったくの誤りであり、不当だという主張を、英語と日本語の検定試験の通時的データの詳細な分析から展開されました。具体的には、日本人は英語検定試験のスコアが低いですが、日本語検定試験では逆にアメリカ人やヨーロッパ系の言語を母語とする受験者たちのスコアが著しく低くなるという結果が出ていることを示されました。それ故に、日本の生徒・学生が国際比較

という面で英語のスコアが相対的に低くなる理由は、英語教師が原因ではなく、英語と日本語の言語系統上の距離というものが一番大きな原因だという見解を述べられました。言語系統の違いという視点は見落としがちですが、英語教育のみならず、英語以外の外国語教育の習得にも直接関わり、極めて大切だと思われます。蛇足ながら、大谷先生は90分間水を一口も飲まれず、ずっと立ったまま話をされました。85歳というお年をまったく感じさせない若さとエネルギーで、ただただ驚嘆し敬服いたしました。

第1分科会(小学校・中学校)では、4校の活動事例報告がなされました。国際交流や文化交流といった実際的な活動の成果について、生き生きとした生徒の交流や、担当の先生方の創意・工夫、地道な努力などが非常によく伝わってくるものでした。

第2分科会(高等学校・大学他)では、1財団、3校、5大学による活動事例報告や研究報告などがなされました。全体として高大連携という視点から示唆的な議論が活発になされました。特に高大の有機的なつながりの深化、すなわち、①高等学校において英語以外の外国語教育の裾野が広がっていくこと、そして②その広がりが大学の入試制度とマッチングしていくことによって、今後高大連携が徐々に拡大していく可能性のあることが示されました。

パネルディスカッションでは、大学入試における外部検定試験の活用をテーマとし、ドイツ語、フランス語、中国語の関係者間で課題の洗い出しとそれらの情報を少しでも共有することができたという意味で、歴史的意義も持つ試みでした。また韓国の状況についても新しい情報を知ることができました。

今、英語と英語以外の外国語の関係者が、JACTFLを通じて言語の壁を超えてつながり始めました。そして、幼小中高大院の言語教育の各段階の壁を超えてつながり始めました。今回のシンポジウムでは、言語教育の各段階の、英語を含む多様な外国語教育の関係者が、互いに触発し合い、問題意識を高められる、そのような有機的なつながりを持っていることを改めて確認できたのではないのでしょうか。このつながり始めた多言語・複言語教育の芽を会員の皆様と一緒に大切にしながら少しずつ育てていきたいと思えます。将来、大木に成長することを願いながら。

(筑波大学)